

# 平成27年度 五泉市家庭科部 活動報告

部長 山本 恭子

1 研究主題 授業研究及び研修や実習を通して、授業力の向上を図る

## 2 研究の概要

- 第1回（4月）年間活動計画の立案
- 第2回（6月）制作実習「ミシンで小物作り」
- 第3回（9月）授業研究「食べて元気に」（5年）
- 第4回（10月）食生活と栄養に関する講義

## 3 研究の実際

### （1）ミシンで小物作りをしよう

6年「感謝の気持ちを伝えよう」で、卒業プレゼントの試作実習を行った。教科書掲載の参考作品の中から、「エコ生活」の一環としてエコバックを選び、卒業前の限られた時間を考慮して、必要な材料がセットになっている教材を使用した。全員がほぼ1時間で完成させ、作業の困難な所を共有したり、ミシンの効率良い使用方法などについて情報交換を行ったりすることもできた。



### （2）食生活について考えよう

研究授業は、五泉小学校5年生の学級で行った。

今回は、家庭科担当教諭と栄養士とが連携して授業を行った。本時では、一食分の献立に多くの食品を用いている給食を教材として食品の仲間分けを行った。文字だけでなく、絵カードで食品を提示することでより具体的なイメージをもって食品の働きを考えることができた。また、グループでの話し合い活動の活発化に効果的だった。栄養士の働きをしっかりと学習する前にあえて食品の仲間分けをさせたことで、児童の関心を引きつけ、興味を持続させることができた。



また、栄養士が、バランスよく食べる必要性について丁寧に説明した。専門的な知識を子どもがイメージしやすいように例えを用いたり、家庭科担当教諭の支援があったりして子どもたちにとって、とても分かりやすい授業であった。授業構成や教具の準備、2人の役割分担などでTTの良さ、強みが表れていた授業であった。

5・6年生の学習内容である食生活と栄養の指導内容に関する講習会を10月に開催した。講師に五泉市教育委員会学校教育課の栄養士樋口辰也様を迎え、「食生活と栄養」をテーマに、示唆に富んだ指導をいただいた。

主な内容は、以下の通りである。

- 栄養と栄養素の違い
- なぜ食べるのか、そのために、自分自身のなりたい姿を想像して必要な術を創造することが大切。
- 五大栄養素を教えるだけでなく、これらを生活にどう生かせばよいかを考えられる人間に育てることが大切。



## 4 成果と課題

研究授業、実習、講義のいずれも日々の授業の参考になるものとなった。知識豊富な外部の専門家の参画も、授業力と知識の向上に大変有効であった。今後も連携しながら研修を行っていきたい。また、児童が授業で体験したことや得た知識をより良い家庭生活を目指すために実践していきけるよう、関心をひく教材や効果的な指導方法、評価の工夫などをさらに進めていきたい。